

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名:

工学部

部局長名:

富田栄二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>・教育の実施体制について(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</p> <p>(1)工学部共通コア科目を継続実施し、内容についても引き続き改善を検討</p> <p>(2)工学教育外部評価委員会の継続開催と指摘事項の改善検討</p> <p>(3)岡山県工学教育協議会に参加し、工学教育に関する検討</p> <p>(5)ピアレビューの継続実施(工学部全体で20科目以上)</p> <p>(6)模範授業事例の提供(ベストティーチャー賞受賞者の取り組み事例紹介、受賞者の授業参観機会の提供)</p> <p>(7)表彰(教育貢献賞とベストティーチャー賞)の継続実施</p> <p>・教育方法・内容について</p> <p>(1)H28年度から実施した60分および4学期制導入に関する問題点への対処</p> <p>(2)経済学部との協力による合同科目「実践的コミュニケーション論」を継続開講</p> <p>(3)企業等からの非常勤講師による実践型教育を継続、卒業研究によるPBL実践型教育の継続実施</p> <p>(4)パソコンを利用した効果的な授業内容の検討</p> <p>(5)教育年報の発刊</p> <p>・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</p> <p>(1)種まれな例を除き卒業生全員を大学院進学(約2/3)および就職させること</p> <p>(2)Q-eamを利用した学生の達成度評価のための傾向分析とデータ蓄積</p> <p>・学生支援について</p> <p>(1)学生フォーミュラ、ロボコン研究会活動への支援</p> <p>(2)就職支援活動「機械系エンジニアの歩き方」「卒業生との就職意見交換会」の継続実施など各学科での就職支援</p> <p>(3)学部留学生との懇談会開催、女子学生との懇談会開催(機械系)</p> <p>・国際共同による教育の状況について、外国人留学生の受入状況について(独自あるいは研究科と協力して実施)</p> <p>(1)留学生受入促進(正規生、特別聴講学生、研究インターンシップ、短期研修生など)</p> <p>(2)日本人学生の海外派遣の促進</p> <p>・その他</p> <p>入試広報に力を入れる(オープンキャンパスで女子生徒を対象としたプログラムの実施、フォームページ主催の夢ナビプログラムへの参画、国立大学54工学系ホームページの充実による岡山大学工学部としての情報発信、母校訪問や工学部独自の出前講義をはじめとする高大連携事業での学生の派遣、岡山県内高等学校理数科系教員との懇談会、高等学校進路指導担当教諭との懇談会、岡山大学と工業系高校との教育懇談会、学科独自の高校教員との懇談会開催など)</p>	<p>左記の目標は、いずれも実施、達成された。</p> <p>以下は補足である。</p> <p>・教育の実施体制について</p> <p>(7)3月7日開催の教員会議にて、教育貢献賞では5件(うち2件はグループ)を表彰し、ベストティーチャー賞では11名をそれぞれ表彰した。</p> <p>・国際共同による教育の状況について、外国人留学生の受入状況について(独自あるいは研究科と協力して実施)</p> <p>(1)留学生受入促進(正規生、特別聴講学生、研究インターンシップ、短期研修生など)</p> <p>浙江工業大学から教員や学生11名、さくらサイエンス事業で、4件、合計47名を受け入れ、日本人学生と交流した。</p> <p>同済大学から4名(3か月程度)、長庚大学から7名(8週間)の学部生、フランスの各大学から学生(主として修士学生)を14名(約6か月)受入れて研究インターンシップを実施した。</p> <p>(2)日本人学生の海外派遣の促進</p> <p>DIG(Dive Into Global society)事業として、タイのバンコクへの派遣27名(H30.3)、台湾の台北(H29.9)への派遣25名を実施した。また、浙江工業大学へ6名(機械系)、同済大学へ12名(機械系)、東北大学へ8名(情報系)を派遣して学生間の交流を実施した。</p> <p>「その他」</p> <p>国立大学54工学系ホームページに岡山大学工学部から「おもしろ科学実験室『輝く工学女子！』『卒業生の声』」の計3本の記事を新たに掲載したことが、岡山大学工学部としての情報発信の実績に挙げられる。</p>
①-2 全学の組織目標との関連	①-2 大学全体への貢献
<p>・留学生受入および日本人海外派遣に関しては、SGU目標があるので、大学院と連携して可能な限り増加させたい。</p> <p>・実践型社会連携型科目の継続実施。また、工学部の場合、4年次における特別研究がその役割を十二分に果たしている。</p> <p>・60分、4学期制を円滑に進めるために、平成28年度で見つかった課題を解決していく。</p>	<p>・SGU目標では、自然系全体で、受入305名、派遣94名であったが、工学系では積極的に取り組み、256名の受入、および122名の派遣を実施し、目標を大幅に上回った。</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>(1)志願倍率(学部入試倍率:前期日程)の目標を2.2倍とする。</p> <p>(平成25、26、27、28、29年度は2.2、2.3、2.4、2.1、2.0倍であった。H30年度は過去5年平均値の2.2倍を目指したい)</p> <p>(2)稀な例を除き、ほぼ全員、就職または進学させる。</p> <p>(4)留学生の受入および日本人の海外派遣学生数は、全学の目標を目指す。</p>	<p>(1)志願倍率(前期日程)は2.1倍で、わずかに目標を達成できなかったが、2.0倍は確保することができた。</p> <p>(2)稀な場合を除き、ほぼ全員、就職または進学させることができた。</p> <p>(3)受入目標および派遣目標も、目標を大幅に上回って達成することができた。</p>
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>・研究水準及び研究成果等について</p> <p>(1)研究成果(論文など)の公表(工学部研究年報:H25年度分から教員評価システムとリンクさせている。また、本システムを毎年改善している)</p> <p>・研究実施体制等の整備について</p> <p>(1)科研申請の支援(研究科と協力して実施)</p> <p>(2)教授会での科研以外の外部資金獲得状況(代表者、金額)の報告(毎月)</p> <p>・国際共同による研究の状況について</p> <p>(1)国際共同論文数を平成28年度よりも増加させる</p> <p>・女性・外国人研究者の受入状況について(研究科と協力して実施)</p> <p>(1)受入促進をする。常勤の教員(特別契約職員を含む)、非常勤研究員、外国人客員研究員に関して、工学系として、平成29年度は平成28年度よりも増加させる。</p> <p>(2)ウーマンテニュアトラック教員1名の採用</p> <p>・外国研究機関における研究従事状況について</p> <p>(1)海外の研究機関において研究を実施する教員数に関しては、平成29年度は、平成28年度よりも増加させる。</p> <p>・その他</p> <p>(1)表彰(研究功績賞)の継続実施</p>	<p>左記の項目は概ね実施している。以下に補足説明をする。</p> <p>・研究水準及び研究成果等について</p> <p>(1)研究成果(論文など)の公表:査読付論文数はH28年度の263件から292件と大きく伸びた。国際会議発表数(査読付)は、平成28年度の262件から、187件と少なくなったが、ほぼ例年並みである。</p> <p>・研究実施体制等の整備について</p> <p>(1)科研申請の支援:科研申請書の書き方講習会の開催のみならず、産学連携本部と協力して4名がPBL方式を取り入れた研修を実施した。</p> <p>・女性・外国人研究者の受入状況について</p> <p>(1)非常勤研究員、外国人客員研究員は、工学系として、それぞれ9名および15名であった。</p> <p>(2)ウーマンテニュアトラック教員1名を情報系で採用した。</p> <p>・外国研究機関における研究従事状況について</p> <p>(1)海外の研究機関において研究を実施する教員数に関しては、平成29年度は8名であり、平成28年度(7名)よりも増加した。</p> <p>・その他</p> <p>(1)表彰(研究功績賞)の継続実施:5件(9名)の表彰を行った。</p>
②-2 全学の組織目標との関連	②-2 大学全体への貢献
<p>研究に関しては、大学院と連携、協力して実施する項目が多いので、協力体制を密にする。</p>	<p>・公表論文数が昨年度に比べて大幅に増加した。</p> <p>・科研以外の外部資金導入は順調であり、総金額は過去5年平均値を5%程度、上回り、間接経費としても大学に貢献することができた。</p>
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>(1)科研申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当するようにする。ただし、特別な理由がある教員を除く)を目指す。</p> <p>(2)科研新規採択率は前年以上を目指す。</p> <p>(3)科研以外の外部資金獲得(共同研究、受託研究、奨学金等)数および金額は過去5年平均値を上回るようにする。</p>	<p>(1)科研申請率は、特別な理由がある教員を除いて、ほぼ100%の申請率となった。</p> <p>(2)科研新規採択率は前年以上を目指したが、19.8%と低調であった。</p> <p>(3)科研以外の外部資金獲得(共同研究、受託研究、奨学金等)数および金額は231件、6.34億円となり、過去5年平均値(239件、6.02億円)と比較すると、件数は3%程度減少したが、金額は5%程度増加した。</p>

③社会貢献(診療を含む)領域

<p>③-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携、社会貢献について (1)小学生、中学生対象の出前実験の継続実施 (2)産官学が連携した研究会の事業(岡山情報通信技術研究会など多数) (3)国立大学54工学系学部長会議下の大学連携推進委員会に協力 (4)公開講座を継続実施する (5)表彰(社会貢献賞)の実施 ・国際交流・協力について (1)ミャンマーとの連携について、関連他大学(六大学)とともに推進(研究科と協力して実施) (2)中国赴日留学生教育の実施(研究科と協力、工学系教員が団長、多数の教員が協力) (3)台湾の長庚大学との交流(学生のインターンシップ受入を継続、教員の交流継続実施、派遣の検討) (4)同済大学との交流継続(大学院生および教員の派遣、学生の研究インターンシップ受入) (5)浙江工業大学等との交流継続(学生、教員の受入、学生、教員の派遣:ただし先方の予算次第) (6)米国ウエイン州立大学との交流継続(研究室開設、教員の交流、学生交流の検討)(研究科と協力して実施) (7)マレーシア、シンガポール、中国からの学生受入(さくらサイエンスプログラム)の継続実施 (8)フランス(ポアティエ大学、グルノーブル大学)からのインターンシップ大学院生受入(研究科と協力して実施) (9)タイの日系企業および大学への学生派遣事業の継続 	<p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携、社会貢献に関しては、予定通り実行することができた。 ・国際交流に関しては、左記の項目はすべて実施した。 さらに(9)に関してはタイ同様、台湾の日系企業および長庚大学への学生派遣事業を実施した。 (7)のさくらサイエンス事業としては、左記以外に、中国の東北大学、ミャンマーのヤタナボンサイバーシティ工科大学からも受け入れた。
<p>③-2 全学の組織目標との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・協力に関しては、SGU目標に従って、部局の取り組みを促進する。今までの取り組みを継続・発展させるとともに、新規に設定する取り組みを増やすようにする。 ・ミャンマーとの連携に関しては、従来通り、六大学の枠組みで取り組む。 	<p>③-2 大学全体への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流・協力に関しては、SGU目標に従って、研究科とも協力して部局の取組を促進した。新規に、台北での短期研修を実施し、25名の参加があった。ミャンマーの各大学との交流も六大学との取り組みのみならず、岡山大学工学部独自の取組も開始している。
<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・協力に関しては、SGU目標を目指す。 	<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGU目標では、自然系全体で、受入305名、派遣94名であったが、工学系では積極的に取り組み、256名の受入、および122名の派遣を実施し、目標を大幅に上回って達成することができた。

④管理運営領域

<p>④-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部局運営体制の改善強化について (1)教務、FD委員会見直しの検討 (2)工学部国際交流委員会の設置 ・部局組織の活性化について (1)工学部国際交流委員会の設置 (2)産学連携推進委員会の廃止(学科主任会議で対応) ・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について (1)女性教員:目標7人 (2)外国人教員:目標67人(うち外国籍9人) ・効率的・戦略的な予算配分・執行について (1)学生の海外派遣に関する支援 (2)教員の長期海外研修に対する支援 (3)留学生受け入れに対する教員や在学生への支援 (4)各種報告書印刷の廃止 (5)教授会等の資料のWEB化の実施 ・安全衛生に対する配慮について (1)防火、防災訓練の継続実施 (2)ストレスチェックの継続実施 ・施設整備の推進について (1)駐輪場の継続整備 (2)蛍光灯のLED化促進 ・法令遵守の徹底について (1)コンプライアンス研修会の継続実施 ・その他 (1)ハラスメント防止研修会の継続開催 	<p>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 左記の目標は、いずれも概ね実施、達成された。 以下は補足である。 ・ダイバーシティの推進 (1)女性教員は目標通り7名となった。 (2)外国人教員は、63名(うち外国籍は9名)となり、目標よりもやや少ない状態である。 ・効率的・戦略的な予算配分・執行について (1)学生の海外派遣支援:大学院生が工学部主催のプログラムに参加する場合、1名あたり5万円程度の支援をした(合計20名) (2)教員の長期海外派遣に関する支援:年間4名まで各40万円の支援の制度により、1名を支援した。 (3)本年度は特に支援をしなかった。 (4)工学部概要、教育年報、インターンシップ報告書、時間割等の印刷を廃止して、WEBに掲載し、印刷費を削減した。 (5)教授会、学科主任会議の資料をWEB化した。 ・安全衛生に対する配慮 (1)例年、防火訓練を実施していたが、1号館から火事が発生した際、一部、訓練の成果が活かされない状況が生じたため、訓練の方法の一部見直しを実施した。 ・施設整備の推進について (2)4号館および6号館のLED化を工学部の独自予算で実施した。 ・法令遵守の徹底について (1)公的研究費等の不正防止に関するコンプライアンス研修会の実施(3月7日) ・その他 (1)ハラスメント防止研修会の実施(7月5日) (2)情報セキュリティ・ラーニングの受講徹底
<p>④-2 全学の組織目標との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学部は、学生、教員ともに人数が多いので、トラブルの発生確率が高くなる。よって、不正行為やハラスメントの減少に努め、法令順守に努める。 	<p>④-2 大学全体への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性教員は順調に増加し、目標を達成した。 ・各種会議資料、報告書などのWEB化により、印刷費を削減した。
<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性教員の増加(目標7名)および外国人教員数の増加(目標67名、うち外国籍9名)。 	<p>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性教員の増加(目標7名)に関しては、7名となり、目標を達成した。外国人教員数の増加(目標67名、うち外国籍9名)に関しては、目標をやや下回った。

【総括記述欄】

(1)志願倍率(前期日程)は、目標(2.2倍)にわずかに届かなかったが2.1倍と2倍を上回った。ただし、学科によっては2倍を下回ったので、来年度の広報活動等に役立てるため、原因を分析する予定である。

(2)科研の申請率は目標を達成できたものの、本部の示す採択率は目標を達成できなかった。研究科と協力し、さらに改善してゆきたい。

(3)共同研究、受託研究、奨学寄附金の外部資金獲得額については、過去5年間平均約5%増の目標を達成できた。今後もさらにして増えるようにしていきたい。

(4)目標として記載した項目以外に、海外からの受入および派遣は積極的に実施した。各項目については、上記に記したように積極的に検討、あるいは実施した。